

田んぼと 油田²



留学生がみた
豊川地区

県庁所在地である秋田市から車で30分ほど。細くなっていく道を、広がる田んぼに押し出されるように進んでいくと、いつしか道は上り坂になり、気づけば櫓やぐらがぼつんとたたずむ丘の上に。

秋田市に隣接しベッドタウンとして栄える潟上市かたがみの中で、三方を山と森に囲まれ「行き止まり集落」と呼ばれる豊川地区。そんな豊川地区を留学生と一緒に訪ねてみました。

かつては天然アスファルト、油田で栄え、多くの人々を集めたまち。農聖・石川いしかわ理紀りきのすけ之助が活躍し、遥か九州までその名が知られたまち。今は人々が去り、急激な過疎化に直面しているまち。日本のすべてのまちと同じようにここにしかない歴史と物語を抱えながら、日本の多くのまちと同じように人が減ってゆき、それを伝えていくことも困難な豊川地区。

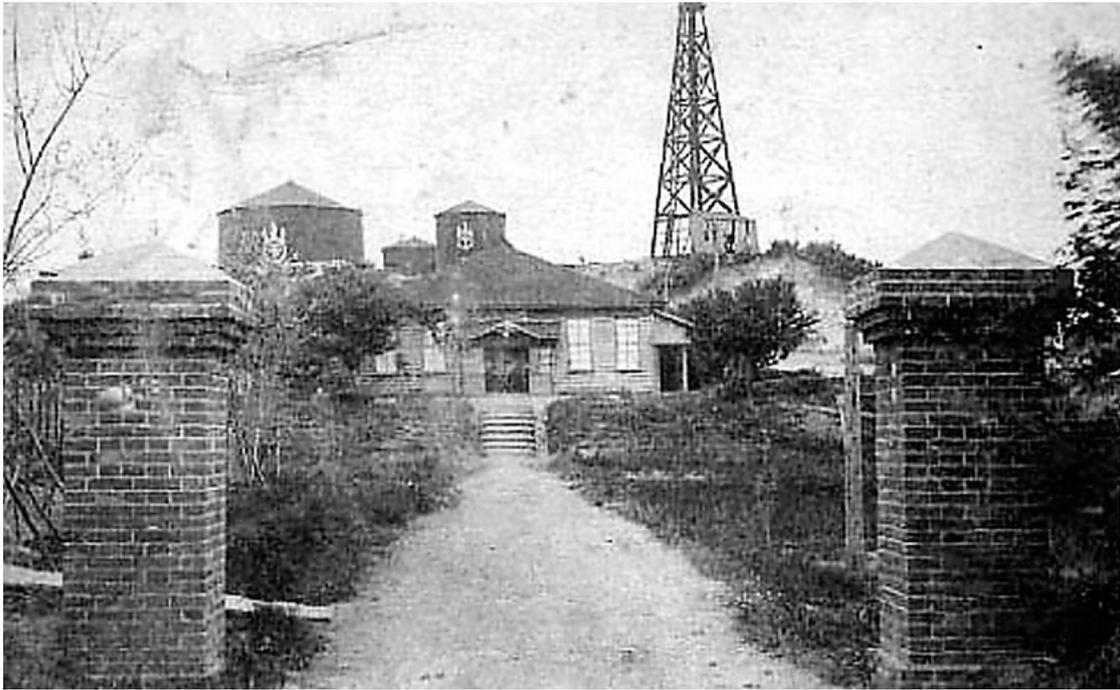
そんな豊川地区は留学生の目にどのように映るのでしょうか。

これは、秋田大学に所属する8地域43名の留学生と1名の日本人学生が、豊川地区を見て、そしてそこに住む人たちにインタビューをして、考えたことをまとめた本です。留学生が過疎のまちで見つけた驚き、喜び、楽しみ、悲しみ、寂しさ、暖かさ、力強さ。

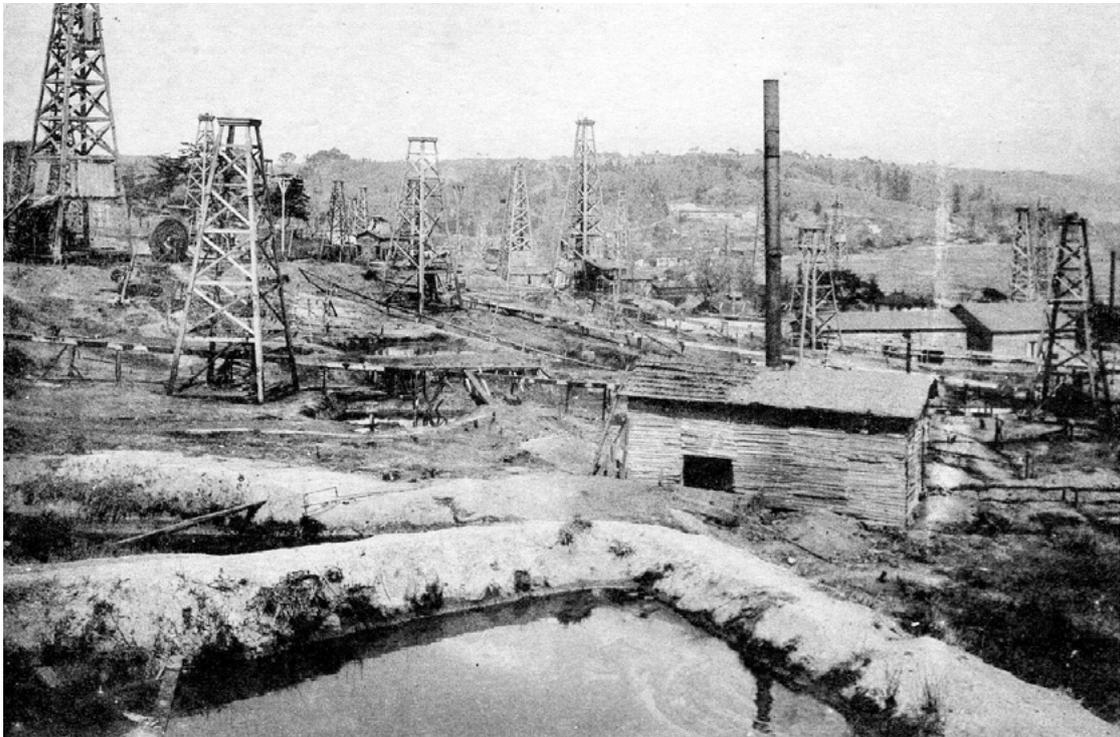
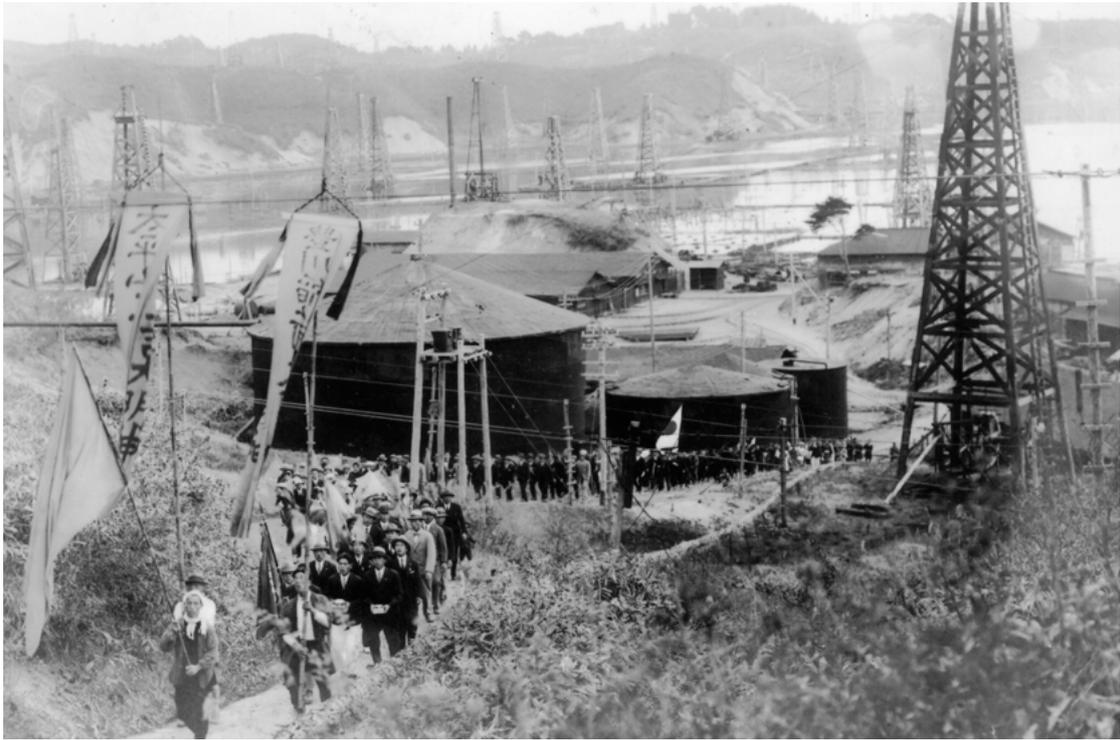
少し足を止めて豊川地区を、そして、みなさんの周りにあるすべてのまちの物語を私たちと一緒に眺めてみませんか？



学生とともに油田跡地を歩く。過去の歴史を知らなければ何の変哲もない秋の山道。しかし道端には時折赤錆びたタンクやドラム缶、ポンプなどが現れ、足元には現在も豊川から出た天然ガスを流しているパイプが這っている



上下とも豊川油田最盛期の大正時代の写真。下は株山地区の大正10年の姿。この年は産油量が最高に達した年で、6社以上が油田開発・操業を行っていた。写真にも原油精製のための多くの建物が見られる。現在は東北石油の建物が一軒残るのみ



上は大正15年に建てられた豊川稲荷神社へ向かう日本石油の社員の大行列。背後には当時まだ木（秋田杉）で作られていた櫓が林立している。下は同じく大正時代の日本石油の鉱場。当時の木造の櫓は火が出るとひとたまりもなかった



下の写真は現在も豊川で油田を操業している東北石油の事務所。元は、初めて豊川油田を発見した中外石油アスファルト社が大正4年に建てたもの。実はこの建物、秋田県初の洋風建築で、現在も屋根の意匠に当時のモダンな香りを残している



大正6年の油井（ゆせい）改修用の2本櫓。木造の櫓は朽ちた後に鉄製になった。この櫓は子どもたちの格好の遊び場で、男の子も女の子もよじ登ったり重りの部分にまたがったりしたそう。しかし、今の子どもたちにはほとんど知られていない

田んぼと油田の町、豊川へようこそ！

イラスト＝平田早季

潟上市は、県庁所在地がある秋田市の北西に位置する人口約34500人の町。潟上市は1970年代からベッドタウン化が進み、県内市町村で現代まで最も人口増加を続けていた区域です。その中でも豊川地区は、天然のアスファルトの産地として全国に名の知られる存在で、我が県第一号の特産品でした。し

かし、期待を寄せられていた石油の採掘は、大正10年にピークを迎えて以降は縮小の一途をたどり、2001年に原油の生産が完全に停止。ひとつの時代に終わりを告げることとなりました。その後、地元保存会の活動も実り、2007年11月30日には経済産業省から「近代化産業遺産群」に認定。また2009

年5月10日には、天然アスファルトの地質露頭の存在が認められ、日本の地質百選にも認定されました。こうした輝かしい歴史を持つ豊川地区ですが、現在の状況は必ずしもかんばしいものとは言えません。いわゆる「行き止まり集落」であるここは、周辺市町村との合併の際に進んだ大久

保地区への交通アクセス改善とともに、地域住民の他出、進学・就職による転出が相次ぎ、2012年には住民の憩いの場でもあった潟上市立豊川小学校が135年の歴史にピリオドを打ちました。その跡地には「豊川地区コミユニティセンター」がお目見え。現在は、豊川が生んだ「農聖」

石川理紀之助の功績を伝える「郷土文化保存伝習館」や、かつての繁栄を伝える「豊川油田展示室」とともに、地域のシンボルとして住民たちの活動拠点になっていきます。深刻な人口減少問題に直面する秋田の地で、新たな時代を歩み始めたばかりの豊川地区に、みなさんもぜひ足を運んでみてください。

くさきだに 草木谷

里山にある石川理紀之助翁ゆかりの農地。主に環境学習のために用いられている。非営利団体「草木谷を守る会」（代表：石川紀行）が、田植え・稲刈り体験などの環境学習、ホテル鑑賞会、その他各種イベントを不定期に開催している

「草木谷を守る会」
連絡先: kusakidani.mamorukai@gmail.com
住所: 秋田県潟上市昭和豊川山田字家の上62
ホームページ: <http://kusakidani.net/>
Facebook:
<https://www.facebook.com/kusakidani>



かたがみ 潟上市多目的 交流施設

(豊川コミュニティセンター)

豊川小学校跡地に建てられた多目的施設。
地域コミュニティの新たな活動の拠点

電話: 018-877-4738
住所: 秋田県潟上市昭和豊川船橋字鈴木8-1
開館時間: 9:00~21:30

*施設の使用申し込みは、使用の3日前までに上記の連絡先へ

潟上市郷土文化 保存伝習館

石川理紀之助翁遺跡に併設された資料館。
貴重な資料や遺稿が保存・展示されている

電話：018-877-6919
住所：秋田県潟上市昭和豊川山田字家の上64
営業時間：
4月～10月 9:00～16:30
11月～3月 9:00～16:00
休館日：月曜日、祝祭日の翌日、
年末年始（12/28～1/3）



JR奥羽本線
大久保駅

潟上市役所
昭和庁舎

ブルームッセあきた

潟上市特産品を揃えた道の駅に、世界の花が
鑑賞できる温室、レストランを併設

電話：018-855-5041
住所：秋田県潟上市昭和豊川竜毛字山ノ下1-1
営業時間：9:00～18:00
（レストラン 花の大地は11:00～18:00）
休館日：年末年始（12/31、1/1）
URL：<http://www.blume-messe.com/index.html>

豊川油田 （豊川タールピット）

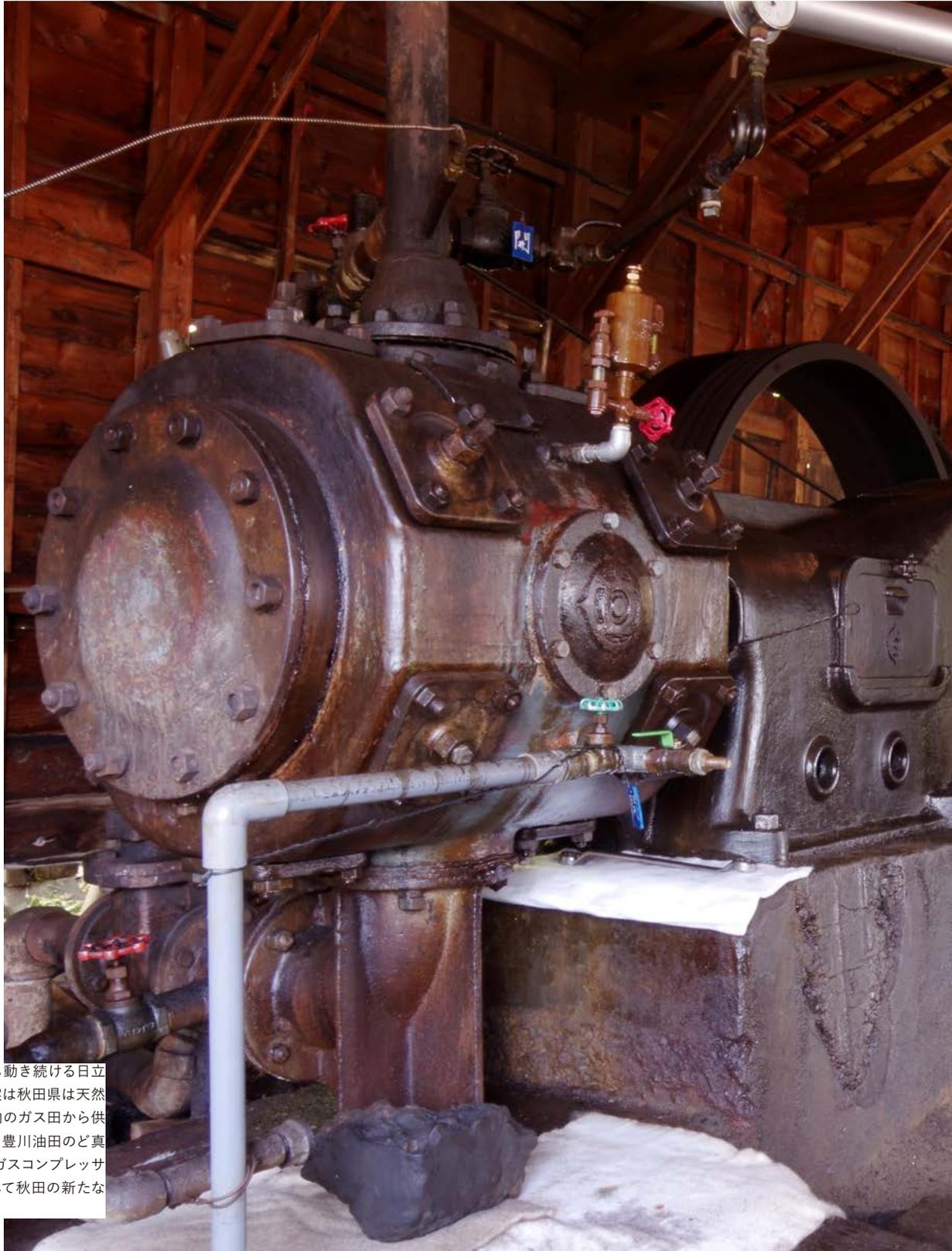
山中には檜など、開発当時の施設の一部が残る。天然アスファルト層も露出しており、「豊川タールピット」の別名も。油田展示室では、天然アスファルトの採掘や油田発見、そこで働く人々にまつわる歴史を伝えている

電話：018-877-2069
住所：秋田県潟上市昭和豊川槻木真形尻56-2
*豊川油田展示室の見学を希望される方は「豊川油田の歴史を伝える会」（上記番号）までお問い合わせください

秋田自動車道

留学生が聞いた、 豊川の人々の物語

大正〜平成まで、約100年近く
稼働していた豊川油田。
働いていた人、ここで育った人、
油田をまったく知らない人……。
90代から10代の住民10名に、
9地域44名の学生が
インタビューを行いました。
それぞれの話から浮かび上がる
豊川油田の歴史や物語を、
どうぞご覧ください。



木造の小屋の中で現在も動き続ける日立製ガスコンプレッサー。実は秋田県は天然ガス消費量の67%を県内のガス田から供給しているという資源地。豊川油田のど真ん中で黙々と動き続けるガスコンプレッサーは、私たちに豊川、そして秋田の新たな一面を垣間見せてくれた

石油会社時代に戦争を経験 五十嵐養治郎さんを訪ねて

聞き手 朱敏(中国)、楊晶(中国)、徐勝男(中国)、任芸(中国)、

金テヨン(韓国)、朴ヒョンソン(韓国)、バビエラ・カレン(フィリピン)



インタビューの助けになればと油田に関する資料を44名分印刷して持って来てくださった五十嵐さん。「話も下手だしこういうのはあまり好きな方じゃない」とおっしゃりながらも「だけでも私、話したいなというのが一つあった」と語られる貴重なお話に皆真剣に耳を傾けました



洋服にランドセルの子と、
着物に風呂敷包みの子

——五十嵐さんは現在90代ですが、子どもの頃、豊川の町はどんな様子でしたか？

五十嵐 私が小学校に入学したのは昭和6年(1931年)ですが、当時豊川が盛んなりし頃でして、小倉石油、中野石油、日本石油、宝田石油、大日本石油、帝国石油など、豊川にはいろんな会社がありました。ただ、景気が良かったのは主に石油会社の、外から豊川に移り住んできた人たちでして。私を含め地元の子どもは大抵農家の生まれで、同じ学校に通っていても、服装が全然異なっていたのです。

——服装ですか？

五十嵐 石油会社の子どもは洋服にランドセルという姿でしたが、私ら農家の子どもは、教科書を風呂敷に包み、着物姿で学校に通うと。その違いにまず驚きました。あと、お金のある家には石油のストープがありましたが、我々の家は囲炉裏で薪を燃やして暖を取っていた。確かに豊川の町はにぎわっております

したが、貧富の差が激しかった時代でもあったんですね。

——石油会社で働くようになったきっかけは何ですか。

五十嵐 14歳で「石油教習所」に入ったのがきっかけです。昔の学校制度は今と違っておりまして、義務教育は小学校の6年間のみで、その上は「小学校高等科」で2年間。これは自由に入れた。そこを出ると次は「中学校」という、今の高校にあたる学校に4年間通うんだけど、ここは能力とお金がないとなかなか行けない。例えば1クラス45人いたとして、中学に進めるのはその内4〜5人くらい。私も高等科までしか行けなかった。

——そこから石油の学校に？

五十嵐 そうです。ちょうど高等科を卒業した昭和14年に、日本石油が日本で最初の石油教習所を新潟県に開設しまして。これは石油会社で働くための準備をするような学校で、入学者は社員扱いだから、今で言う「研修」のような感じですか。とにかくお金をいただいて勉強できるというので、家が貧しかった私には願ってもない場所だった。



そこに1年通って、その後39年間石油会社で働いた。勤続で言うとうと40年になります。

石油関係者が抱いていた戦争に対する歯がゆい思い

——卒業後は新潟から豊川に戻って来たんですか？

五十嵐 いや、本当は地元である豊川の油田で働きたいことはやまやまでしたが、会社が「専門教育を受けた君たちを、豊川のようなダメになって行くばかりのところに行くわけにはいかない」と。それで秋田県の象潟にあった井戸の掘削工場に配属されました。単身で行って、会社の寮で生活して。

——その時、豊川はもう景気が悪くなり始めていたんですか。
五十嵐 私は豊川で働いていたわけではないのでそこまで詳しいことはわからないけど、資料によれば、5年前の時点で豊川の石油生産量は最盛期の5分の

1程度まで低下していましたから。ただ、何より大きかったのは、この翌年の昭和16年に始まった大東亜戦争で。あんたがたには分らんかもしれないけど、12月8日に日本が宣戦布告をし、アメリカや中国を相手に戦争が勃発したんです。これは豊川に限らず、新潟などすべての産油地に大きな影響を与えています。

——どんな影響でしたか？

五十嵐 石油を掘る「掘削機」のほか、作業員や技術者も南方へ徴用されてしまった。それで石油が採れる状況じゃなくなっただけでも、大きな原因のひとつは「石油」。日本はアメリカの力によって海外から石油を輸入することができなくなり、それが苦境につながった。私ら石油関係者からするとこういう状況は「ああ、はがゆい」って。石油がほしいばかりに戦争をしているんじゃないかって。

豊川の町はにぎわっていたけど、
貧富の差が激しかった時代でもあったね

——五十嵐さん

豊川で育ち、油田に勤務 平野修悦さんに聞いてみた

聞き手 〓 回曉彬(中国)、呉月(中国)、王策(中国)、許師蘭(台湾)、
黄詩繹(中国)、安スヒョン(韓国)、羅ボルクム(韓国)、猿田紗希(日本)

オイルショックが来て
豊川は意外な好景気に

— 修悦さんは豊川油田で働いていたと聞きましたが、実際にどんな仕事をしていましたか？

平野(修) 私は20歳から帝国石油に勤めておりました。油って、井戸を掘って地下300メートルぐらいまでパイプを入れて、ポンプで汲み上げるの。

— 300メートルですか！

平野(修) ただ、パイプとポンプがつながってる場所が壊れやすくて、その部分の修理をしていたの。私が行っていたのはそういうお勤め。

— なかなか大変そう……。

平野(修) ポンプはエンジンで動かしてただけど、そのエンジンの冷却水が熱によって温められるわけ。私らはそのお湯を使ったお風呂に入っていたの。

昔は誰の家にもお風呂あってそうなかったんだ。でも会社には風

呂が3か所もあったかな。
— 仕事をしていたとき、楽しかったことは何ですか。

平野(修) 仕事の後、大相撲が始まれば、みんなで誰勝つって予想してお金なんぼか出して、そのお金でみんなして飲む(笑)。それが楽しかったな。

— 会社の中でみんなで大相撲したんですか？

平野(修) なんもなんも。プロの相撲選手。

— ギャンブルですね(笑)。

平野(修) あと、一番会社が良かったのはオイルショックが始まったとき。油の値段が上がったから。そのときはみんなで社員旅行に行ったり。

— それだけ元気があったんですね。やはり油田の景気が良かったから、平野さんは石油関係の仕事をしたと思うんですか？

平野(修) そこまで考えたことなかったな。何となく傍にあっ

先々だば、わからない。人口が減って。
子どもが少ないからな

平野修悦さん





修悦さんは最盛期の豊川油田に生きた人たちのエピソードを生き生きと語ってくださいました。学生は、当日はもちろん、インタビュー後も録音した音声を何度も何度も聞き返し、油田での仕事や当時の生活の様子を追体験しました。今では秋田県民よりも豊川に詳しい自信があります(笑)



たからって感じる感じだな。私は勤めているときも半分は農業をしていたから。

——農業もしていたんですか？
平野(修) 今もしている。帝国石油と東北石油で30年働いた年金と農業でまずまずだな。

**油田の再開発は……
 採算がとれず「無理だな」**

——今やっている農業をお子さんに継いでもらいたいですか？
平野(修) そういうこと、考えねえな。子どもは子どものつき合いあるから。みんな大学さ入ればほとんど帰って来ない。

——帰って来て欲しいですか？
平野(修) 帰って来ても仕事ないから。

——将来、大きな会社がここに来て、また豊川油田の開発を始めたら？
平野(修) 無理だな。今、石油ととも採算がとれなくて、ガスだけ採ってるけど、今もう3人しか働いていない。

——3人しか働いていない。そんなに少ないの？
平野(修) 東北石油っていう会社で、天然ガスをとって秋田市

に送っている。働いているのは、ガスのパイプラインを修理する現場の人が2人と、事務の人が1人。それだけ。

——では、豊川の将来はどうかと思えますか？
平野(修) さあ。先々だば、わからない。人口が減って。子どもが少ないからな。なんとかなるんだか、わからない。私が働いていたときは、新潟や秋田市や、外からもよけい人が来て、ここに住み着いて。学校の運動会も盛大で、盆踊りもあった。それから油田のあった株山にはクラブってあって。勤めていた帝石で映画を持ってきて、クラブで映してみんなで見たり。にぎわってたな。

——では、平野さんは今ここでどんなことをしていますか？
平野(修) DVD(笑)。西部劇や探偵映画が好きだから、家で映画をよく見る。あと旅行だな。ほとんど旅行。広島にも行ったし、長崎にも行った。北海道も良かったし、九州一周もした。

あと、沖縄や京都も良かったな。行かないところ、ない。

——いいなあ！

油田の歴史を伝える 平野俊彦さんに聞いてみた

聞き手 黄少普(中国)、胡海明(中国)、慕雨航(中国)、羅ヒヨンス(韓国)、

金スチン(韓国)、アフメトバリエバ・ザリナ(カザフスタン)、

エルヘムバヤル・オユンザヤ(モンゴル)



実は豊川の中にも
「地域格差」があった!?

——俊彦さんは「豊川油田の歴史を伝える会」の会長をされていますが、昔と今では豊川はどう変わりましたか?

平野(俊) ひと口に豊川と言っても、実は地区によって状況が違っていたんですよ。特に景気が良かったのは石油が出ていた真形や草生土(くさうど)という地区で、テニスコートや野球場、映画館に公衆浴場などもあり、とても賑わっていた。ここは油田とともに発展・衰退していきましたが、その他の地域は昔も今もそんな変わらないです。

——豊川の中に地域格差があったんですね。

平野(俊) 油田が盛り上がっていた頃は新潟などから働きに来ている人も多かったんです。でも、そういう人も石油の仕事がなくなり、県内の八橋油田に移ったり、地元に戻ったりしたため、人口が減少。今では家が10〜20軒規模の部落になっていきます。生活するには困らないけど、子どもさんがいない。私らが小

さい頃はあっちもこっちも子どももばっかでした。

——子どもが少なくなると活性化は難しいですね。

平野(俊) 今、秋田県全体の人口が約100万人くらいなんですけども、もう10年も20年もすると約半分になると予想されます。多分、この豊川もそれにならうと思います。この原因は基本的に産業の廃止、早い話が「働く場所がない」ってことだと思います。今の豊川は農業がメインですが、ここに例えば他の自動車産業なり様々な仕事があればそんなに衰退はしない。農業にしても、とにかく規模が小さい。だからみんな生活できず、外に出てしまう。

細々と続ける石油の仕事
豊川の「環境問題」とは?

——俊彦さんは「伝える会」のほか、東北石油という会社でマネージャーもやられていますね。今も石油の仕事があることに、ちょっとビックリしました。

平野(俊) 石油の仕事って、最盛期の大きく昭和初期は良かったけど、今はほとんど儲からな

現在唯一豊川にとどまる石油会社、東北石油のマネージャーでもあり「油田の歴史を伝える会」会長でもある俊彦さんに、油田の過去・現在・未来にとどまらず豊川の農業事情や観光まで幅広いお話を伺いました。皆が真剣にとったメモには、家業である農業で出た赤字の額まできっちりと書きこまれていました



本当は早く会社を閉めたいけど、 環境問題とかあってなかなか閉山できない

平野俊彦さん

いわけ。だから本当は早く会社を閉めたいんだけど、環境問題とかあってなかなか閉山できないわけです。

——それはどうしてですか？

平野（俊） 油やガスってすぐには止まらないんですよ。会社をやめたとしても、ガスはボツと出る。油もボツと出る。どんとどんとあふれるわけ。「じゃあそれ、誰が処理するんですか？」という問題があって。その処理が一番のネックなわけです。これには土やセメントを詰めて固定するという作業が必要になる。なかなか大変です。

——そう聞くとやはり農業のことが気になります。農家と環境面で衝突がありませんでしたか。
平野（俊） 昔は環境問題って概念がなかったから。どんどん出さない、お金を儲けて地域も発展しましょう、住民の皆さんも発展しようという時代。でも、豊川のお米おいしいです

よ。私も田んぼやってますけど。——農業は忙しいですか？

平野（俊） 自分で全部やる時間がないから、田植えと稲刈りは人をお願いしている。それで去年も今年も赤字。

——赤字ならしない方がいいんじゃないですか？

平野（俊） そうなんだけど、田んぼが草ぼうぼうの荒地地になると醜いし、私の両親が許さないから。油田と同じで、儲からないけど処理が必要なんです。

——豊川の未来はどうなると思いますか？

平野（俊） 先ほども言ったように、どんどん過疎化が進むでしょう。それは止められないと思いますが、文化の保存・継承は大事です。株山というところに東北石油の簡単な資料室がありまして、ここを将来は石川理記之助さんの「伝習館」のように立派な資料館にしていきたいなと思っています。



留学生が行く！ 豊川油田で タイムトラベル

文 平田未季

豊川は「過去」にあらず！

現役の機械に驚く一同

10月17日、47名の学生とともに豊川を訪れました。まずは潟上市多目的交流施設で佐々木榮一さんによる講演。留学生のために全て英語で、豊川油田の成り立ちから開発の経緯、当時の人々の様子まで非常に幅広いお話をしてくださいました。その後は、佐々木さんを始めとする「豊川油田の歴史を伝える会」、東北石油社員の方のご案内で丘陵地に広がる豊川油田を歩きました。

道に影を落とすほど茂る木々とその枝にひっそり実る柿やキュウイ。そんな緑あふれる山中に、ときおりポツンと現れる赤さびたタンク、山道と並走するむき出しのパイプ、木製の電柱につながる山肌によりかかるように佇む大正モダンな趣を残す作業小屋。これは廃墟好きにはたまらない!?と思いきや、実はこれら(の一部)はまだまだ現

役。豊川油田は平成13年に採油を停止しましたが、わずかながら天然ガスの生産は続けられており、そのガスはなんと今でも秋田市に供給されているのです。

木造の小屋の中に足を踏み入れると、そこには約半世紀動き続けている日立製コンプレッサーの姿が。がしやんがしやんという稼働音とはりめぐらされたパイプに囲まれ、普段自分達が使っているガスの源を見て驚く学生達。大学を中心とする生活と、過去の歴史だと思っていた豊川油田がつながった瞬間でした。

野生のキュウイをかじりながら山道を通り抜け豊川稲荷神社へ。この神社は、豊川油田を発見した中外アスファルトが作業の無事を祈り大正2年に創建した後、大正5年から操業を始めた日本石油(株)が整備したものの。その頃は毎年創立記念日に社員が神社に集合し祝賀会を開いていたとか。現在はすっかり草木に覆われた境内で往時を





しのび記念写真を1枚。油田最盛期の
大正時代には、私たちが歩いてきた丘
陵地、株山は、油田で働く移住者のた
めの社宅が並び、欧米から来た技術者
のためのテニスコートやクラブなども
あり、朝から晩まで人が行きかう「銀
座通り」とまで呼ばれた地域だったそ
うです。

細い道をそろそろと歩いていく留学
生達。時おりすれ違う道行く人は「今
日は何があんの」と驚き顔。久々にに
ぎわいを見せた「銀座通り」ですが、
現在学生の興味をひくのは道端の木々
やそこになる果物。「こんなに静かな
ところに住んでみたいですよ！」と笑顔
の学生達。「でも、もっと年をとって
から」と正直な一言。

「田んぼと油田」の 絶妙なバランスとは？

秋田は日本一日照時間が短く曇天が
多いことで有名な地域ですが、私たち
が豊川を訪れるときはいつもなぜかま
ぶしいほどの快晴です。今回の油田跡
地見学でも（秋田では貴重な）日光を
浴び、豊川の自然を満喫することがで
きました。そこで多くの学生から出た
疑問。
「油田って、こんな緑の山の中にある
ものなんですか？」
産油国でもある中国やカザフスタン
の学生からは、

「私の国の油田はもっと環境が悪い」
「まわりはすべて真っ黒というイメー
ジです」

集油所の向かいには花に囲まれた住
宅が建ち、山道を下っていくと田んぼ
が広がっている豊川。

「油田による環境汚染はないの？」
「田んぼの横に油田があつて、農家の
人は文句を言わないの？」

田んぼが一望できる山道を歩きなが
ら何度も学生に問われましたが、私が
これまで豊川を訪れた限りでは、油田
による環境汚染について訴える住民の
方はいませんでした。油田があつた丘
陵地と田んぼがある平地は地形的に分
けられていたので影響が少なかった、
農家の人たちは田んぼを少し高くする
ことで油が入らないよう工夫をしてい
た、最盛期には川に油が入ったことも
あつたけれど豊富な資金により問題化
することを防いでいた……。様々な話
を聞きますが、現在の豊川油田は全て
緑に飲み込まれ、当時の栄華の名残も
環境汚染の痕跡もどちらも見つけるこ
とはできません。
そして、今住民の方々の口から語ら
れるのは油田があり華やかだった昔を
懐かしむ話ばかり。良くも悪くも油田
の規模が大きくなり稼働時期が比較的
短かつたことが、豊川における「田ん
ぼと油田」の絶妙なバランスにつな
がったのかもしれない。



遊び上手な「豊川女子」 平野むつこさんを訪ねて

聞き手 王思雨(中国)、寧珊瑚(中国)、徐永丹(中国)、周素娟(台湾)、
鄭ユウブン(台湾)、李ジンス(韓国)、クリステリアナ・マリア(ルーマニア)



過去の女性の厳しい生活について知ろうと準備をしてきた本グループ。むつこさんの口から語られる豊川のアクティブな女性の姿に驚きの連続だったようです。「今の秋田はまるっきり変わった」と語るむつこさん。生活の幸せとは何か、考えさせられたインタビューだったようです



榎遊び、ランドセルのソリ：
むつこさんの楽しい思い出

——むつこさんは油田の最盛期に豊川で子ども時代を過ごされていきました。昔の暮らしはどうでしたか？

平野(む) 私はよく外で遊んでました。夏はセミや野イチゴをとったり、冬は雪だるまを作ったり、ソリで滑ったり。学校の帰り道に坂道があつて、そこでランドセルをソリにして滑ったりもしてました。

——ランドセル？
平野(む) 日本の小学生が背負ってるカバン。結構高くて2〜3万するんですよ、いいのはね。昔のランドセルは今よりも重くて、それに乗って雪の坂道を滑って遊んでた。今も滑ってみたりと思うけど、ちょっとおかしいなと思われてしまいそうで(笑)。ランドセルじゃなくても、肥料の袋でもビニールの袋でもいい。それでピーツと滑ったら楽しそう。

——遊び上手ですね(笑)。
平野(む) あと、油田の榎で遊んだりもしました。鉄筋ついで

うか、40〜50mくらいある、三角のワイヤーでギョコンギョコンって。その榎に乗って遊んだり、当時はトロッコという乗り物もあつて、それに乗って移動して遊んだりもしました。箱に乗って、押して、せば走るじゃないですか。それでガタンと外れちゃったら、みんなで逃げるの(笑)。

——当時は町もにぎわっていたようですね。

平野(む) 人も多かつたし、楽しかった。小さい頃はみんな声かけてくれて。油田の榎には鐘つこがついているんだけど、そこから鉄くずが出るのね。それを拾ってためておいて売ったりもしていた。そのお金でガムを買ったりしてね。

畑に出て、一緒に働く 男女平等だった昔の豊川

——むつこさんは何のお仕事をしていたか。

平野(む) 高校を卒業するまでは家の手伝いをするくらいでただ遊んでるだけだったけど、卒業してから縫製工場子ども服を作る仕事をしたり、電子関



今はすっかり寂れちゃってるから、 戻れるならば昔に戻りたい

——平野むっこさん

係の仕事もやりました。いろんなところの自動販売機をまわって電球を入れるお仕事。結婚してからは一度八郎潟に行ったけど、ホントは私がやらなければいけなかった農家を妹が継いで、それを手伝うために豊川へ戻ってきた。今は旦那と妹と3人で暮らしています。

——今回のインタビューは「豊川の女性の過去と現在」がテーマなんですけど、女性という点に限って言うと、大きく変わったところはどこですか？

平野（む） やっぱ人が減ったってことかな。婦人会とか、いっつか集会もあるけど、今は人が集まらないものね。若い人が県外さ出ちゃって、今はほとんどが70歳以上。

——昔だと男社会というか、男の人には有利だけど、女の人はちょっと働くのが難しいみたいなことってありましたか？

平野（む） それはないですね。

農家が多かったものだから、だから平等に田んぼさ行って、一緒に仕事をしました。ご飯作るのには女の人の仕事で、30分か1時間ぐらい前に早く来て作ってました。でも、今は農業も機械化されてるものだから、女の人にはあんまり田んぼさ入らなくなった。みんな男の人たちがやってみてほしいだね。合理化されて一緒に働くことがなくなった。

——むっこさんはこれからも豊川に残りたいですか？

平野（む） 自分の故郷が好きだから、ずっと残りたいね。今はすっかり寂れちゃってるから、戻れるならば昔に戻りたい。お母さんとかおばあちゃんとか、お正月にみんなからお年玉をもらったのは一番の思い出。あと、これは夢だけどニュージランドに行ってみたくいです。外国のデイズニールランドにも行ってみたい。日本のより大したもんだというから（笑）。

未来を憂うアクティブ・コンビ

鈴木壮二さん

藤原直人さんに聞いてみた

聞き手 〓 吳天歌(中国)、楊雨微(中国)、崔潔(中国)、王云婷(中国)、

吳艷凡(中国)、許俊(韓国)、黃チヤンユン(韓国)、申スンフォン(韓国)



珍しいものや懐かしいものは絶対に残さなきゃいけない

——お二人は豊川の出身ですか。

鈴木 私(鈴木)は豊川生まれの大久保育ちで、本家は油田の麓にありますが。うちの爺さんが油田で働いていた人で。元は新潟から豊川に来て、そこからですね。一時期はイタリアのローマにも2年住んでたけど、今はまたここに戻ってきました。

藤原 僕は近くの大久保出身です。豊川よりはちょっと都会かな(笑)。小中学生のときは豊川の方ってあんまり来なかった。

鈴木 来いよ(笑)。

藤原 一時期は東京にも住んだんだけど、僕は田舎が大嫌いだった。のどかな景色とかもすごいイヤだったんだけど、あるとき草木谷に行ったら、一気に大好きになっちゃって。それで豊川も好きになったし、秋田も好きになった。それがきかっけで地域おこしの活動をやるよう

になったって感じです。

鈴木 私(鈴木)も些細なことがきつかけで、地元を歩いて回ってみたいとき、「大分寂れてきたなあ」って感じましたね。でも、大切なものは残していかなきゃいけないっていうのもあるでしょ。

例えば豊川油田跡にある3PP(ポンピングパワーユニット)なんて国内でものすごく珍しい。貴重なものとか懐かしいものって、絶対に価値があるから残していかなきゃいけない。過去があった、今があるんだから。

——豊川で石油が採れたという事実を知らない人も多いですね。

鈴木 本当は今でも採れるんだよ、採ろうと思えば。秋田市の八橋油田をまた再開発するといふニュースもあったよね。あそこは砂層に原油が入っているんだけど、昔はそれを取り出す技術が未熟だった。でも今は技術が発達して、砂に混ざった原油も採れるようになり、また改めて開発すると。これは技術開発

Facebookの「ういね!」を押しついでよ(笑)——鈴木さん



藤原さん(左)、鈴木さん(右)

学生の感想は「鈴木さんはよくしゃべる人でした」。地域の若手として様々な活動を行っているお2人の迫力に押されつつ、今の豊川および秋田が抱える問題をしっかり共有することができたようです。インタビュー後、早速お2人が作っているFacebookページを覗いた学生も多々。今後もぜひ「いいね!」をお願いします!

地元に住みながらでも 楽しい場所や仕事は作れる

——藤原さん



という側面から考えればやる意味は十分にあると思う。シェールオイルやメタンハイドレードなどのことを考えればね。

秋田には魅力がたくさん でもアピールが足りない!?

——藤原さんは、「草木谷を守る会」の活動をやられています。が、農業にこだわる理由とは?

藤原 そもそも僕は農家じゃないんですよ。「草木谷を守る会」の活動をしているのは、下流にある八郎湖の環境保全と地域活性化活動のひとつとして行っているんです。周辺の環境に配慮して、農業や化学肥料を使わない農業をやっている。全部手作業なのですごく効率の悪い農業なんですけど、おいしいお米ができるわけです。そういう昔ながらの農業を次代の子どもたちにも伝えていければなど。

——これからの豊川はどうなっていくと思いますか?

鈴木 私は希望を持って行くけど(ただし、地域住民が本気でやるかどうかなんだろうけど)、今の若い子はどうかだろう。

藤原 難しいのは働く場所の間

題だよ。秋田にも仕事はあるんだけど、高校や大学を卒業すると、7割の若者は東京や仙台といった都会に出てしまう。

鈴木 第一、秋田県自体が若者に「卒業したらまず県外に行け」と推奨してるからね。それ自体は悪いことじゃないけど、大体行ったら戻ってこないですよ。そりゃ無理もないよ。やっぱネオンのある都会の方が楽しいもん(笑)。

藤原 でも、地元に住みながら楽しい場所や仕事を作ることとでもできると思う。秋田って探せばいろんなお宝や資源があるんですよ。だから、一度都会に出て、また戻って来て、それで自分たちで秋田の魅力を発掘していくってことを今の若い人たちにやってもらえたらいいなと。

鈴木 これは秋田県の悪いところでもあるんだけど、アピールが足りない。だから私たちも、地域おこしの活動の中ではまだまだ若手の下っ端なんだけど、FacebookやYAHOO!などのツールを使いながら活動しています。ぜひ「いいね!」を押しておいてよ(笑)。

豊川の女子高生トリオ 伊藤裕理さん、稲葉麻友さん、 川上桃花さんに聞いてみた

聞き手 〓 廖巧媛(台湾)、賈浩琦(中国)、張璋(中国)、オサンミン(韓国)、
朱ソンビン(韓国)、ス・イン・モー(ミャンマー)、ヴィウレット・ユリア(ルーマニア)



川上さん



伊藤さん



稲葉さん

田んぼやお米も豊川の
いいところですね——伊藤さん

油田の存在は知ってるけど、あまり深く考えたことはない

——みなさんは豊川に油田があり、今も石油やガスが出るというのを知っていますか？

伊藤 自分の地区で採れた石油やガスがたくさんの人に使われているので、いいと思います。

川上 私は石油についてあまり関心はなかったんですけど、ここは自然がとにかく豊かなので、そういう環境で生まれたのはすごく良かったなと思います。

稲葉 私もそう思う。
——みなさんが小学生のとき、豊川油田について勉強したことがありますか？

伊藤 歴史とか、ちょっとだけ教わりました。

川上 自分の生活とはあまり関係ないけど、採れるならめっちゃ発掘されたいよね。

稲葉 昔は石油もすごかったらしいけど、段々と減ってきて、今はほとんど採れなかったような気がする。

——今日は3人が小学生だったときに先生だった富士盛さんにも来ていただきました。

富士盛 私はこの場所(豊川コミュニティセンター)にあった豊川小学校で教師をしていて、10年くらい前のことしかわからないんですけど、油田を含め、豊川の歴史は小学校でも少しは教えていました。

——富士盛先生が学生だった頃は油田のことを学びましたか？

富士盛 みんなと同じで、ここに油田があったというのはわかっていただけでも、そんなに深く考えたことはなかったですね。おそらく、生活に直接関わりがなかったからかな。事実としては知っていたし、すごかったんだろうなと思うけど。

——豊川の長所はどんなところですか？

川上 人が少ないので、子どもからお年寄りまで関わる行事が多いことですかね。挨拶とかもちゃんとするし、子どもたちは学年に関わらずみんな仲がいい。

伊藤 あと、田んぼとかお米とかも豊川のいいところだと思います。ブルーメッセには米のアイスもありますよ。

——飯田川の「パルテール」のタルトもおいしかったです。

通っていた小学校が なくなっちゃったのは悲しい

——稲葉さん



前回に引き続きまとめ役として参加してくださった富士盛先生、そして3名の高校生の皆さんと楽しく盛り上がった本グループ。豊川について一番話が合ったのは、道の駅で売られている「こまちアイス」！豊川に来たら是非ご賞味ください



稲葉 それ、豊川じゃない(笑)。伊藤 全然関係ないけど、幽霊とか出るって聞くよね。普通に火の玉が見えたり。

できれば残りたいけど、仕事がないから豊川を出る

——豊川と言えば石川理記之助さんも有名ですね。

伊藤 小学校で習いました。確か、誰よりも早く起きて働いていたんだよね。人に言う前に最初にお手本になって、自分から行動してやっているとがすごいと思いましたが。それはサボることなく、毎日欠かさずやっていたのがすごい。

富士盛 理記之助さんは今年で生誕100年なので、いろんな場所で催し物があったりしますね。すごい方だと思います。言葉だけじゃなく、自分が実行することで回りの農家の人たちを支えたり助けたりしていた方なので。

——みなさんは学校を卒業した後、豊川に残りますか？

伊藤 できれば住んでいたいけど、ここら辺はあまり仕事をすする場所とかがないので、違うところで就職するかもしれない。

川上 遊ぶ場所もないしね……。

富士盛 この子どもたちは豊川のことが大好きなので、ずっと住んでいたいなと思ってると思います。ただ、やはり仕事の問題があつてこの土地を離れる人が多いですね。

稲葉 自分が通っていた小学校がなくなっちゃったのも大きいよね。もう行けないというのは悲しいことだなと思います。

富士盛 ここに住んでいる子どもも大人も「豊川が好きだな」って思えるような場所であつて欲しいですね。

川上 少子化が進むのは仕方ないけど、できればここら辺に若い人たちが集まる場所を作りたいなという思いはあります。

自然豊かな環境で生まれたのは すごく良かった

——川上さん

“油田の語り部”と学ぶ！ 豊川の栄枯盛衰ヒストリー

文 佐々木 榮一

豊川油田のこと、
なんくでも
聞いてください！



佐々木 榮一／ささき・えいいち
北海道出身。1972年秋田大学鉱山研究科修了。専門は石油地質学。卒業後、石油資源開発(株)に入社し、国内の油田開発に加え、バングラデシュ、マレーシア、ロシアのサハリン州での石油探査業務を行う。趣味は歴史小説などの読書

縄文時代から重宝された
豊川の天然アスファルト

みなさん初めまして。「豊川油田の歴史を伝える会」顧問の佐々木 榮一と申します。

秋田県の海岸沿いには多くの油田が存在しています。秋田県の地下には、石油を生み出す有機物を多く含む「石油根源岩層(石油母岩とも言います)」が広く、厚く分布しているからです。豊川地区にも、この石油根源岩層から出来た石油が埋蔵されているのです。

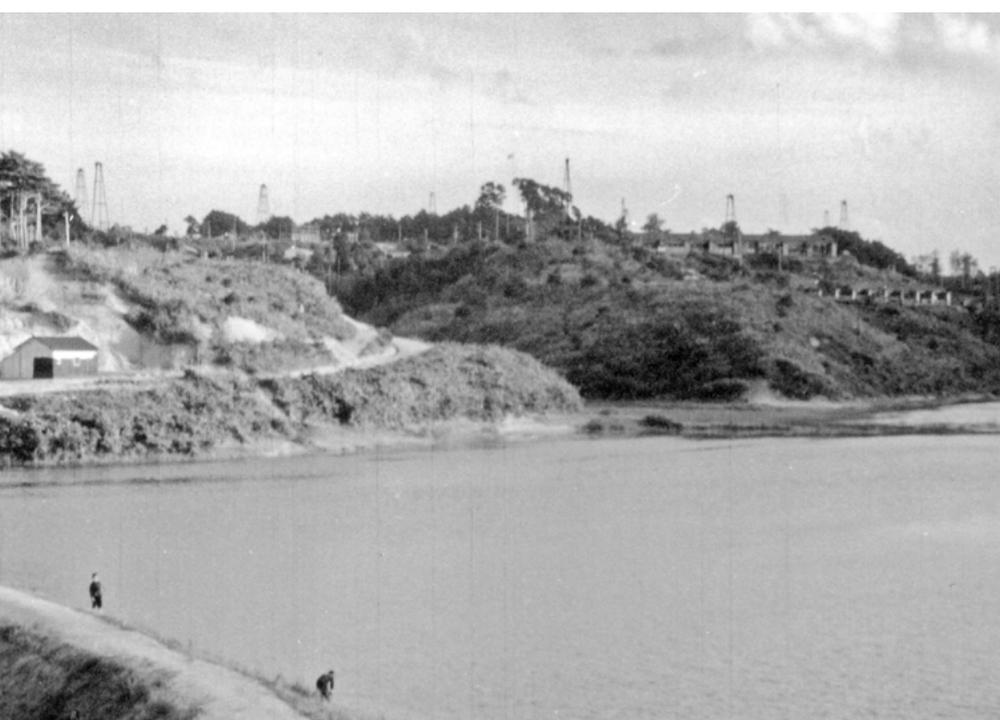
約2万年前の氷河時代、豊川の地で断層などの割れ目を通じ、地下に溜まっていた重質な原油が地表に流出。これが天然アスファルトとなり、豊川の丘陵地

を覆いました。また、流れ出た天然アスファルトは低湿地でアスファルトの池を形成。そこにナウマン象などが落ちて化石として残り、発見されました。これは極めて特異な現象であり、私たちは「タール(＝アスファルト)」のある「ピット(＝場所)」という意味で「豊川タールピット」と名づけました。

この天然アスファルトは、縄文時代には矢尻や槍の接続部に接着剤として使われ、秋田県内のみならず東北地方各地にその利用が広がりました。江戸時代後期には、豊川の地において天然アスファルトの利用研究を進めた黒澤利八により、墨の原料や漆・柿渋の塗料などの黒色材となる油煙(黒色のスス)が製造

され、大阪や江戸でも販売。明治時代になると欧米文化が導入され、天然アスファルトは道の舗装工事にも使われるようになります。日本で最初の舗装道路工事は明治11年に東京・神田の昌平橋で行われましたが、このときに使われたのが豊川産の天然アスファルトでした。

明治時代後期になつて舗装工事への需要がさらに拡大していった天然アスファルトは、その採掘が進むにつれ埋蔵量の枯渇が懸念されるようになりました。そのため、この地で採掘事業を展開していた中外アスファルト社は、原油からアスファルトを取り出すことを目論んで油田の発掘に着手。そして大正2年(1913年)に発見されたのが



この豊川油田でした。

油田をめぐる栄枯盛衰 語り継ぐべき豊川の歴史

最初に油田を発見した中外ア
スファルト社はその後、大正7
年に宝田石油に合併されます。
さらに大正10年には日本石油に
吸収され、会社の規模が拡大。
そしてこの年、豊川油田として

は最高となる87000klの原
油生産量を記録。この時期には
1000名を超える石油関係者
が豊川で働いており、町も急速
に発展していき、大正14年には
皇太子殿下(のちの昭和天皇)が
油田の視察に訪れるなど、豊川
は最盛期を迎えました。

しかし、好景気も長くは続き
ませんでした。原油生産量は緩
やかに下降し続け、昭和10年
(1935年)には1500kl(最
盛期の5分の1)にまで低下。さ
らに、昭和16年に太平洋戦争が
勃発して以降は、豊川からも多
くの資機材や技術者が徴用され
ていきました。

戦争が終わっても生産量が回
復することはもはやなく、昭和
21年の原油生産量は2800kl

にとどまり、多数の廃坑や設備
の統廃合で油田操業はますます
悪化していきました。そして、
最後の年となった平成12年にな
ると540klにまで落ち込み、
翌13年すべての原油生産を停止。
なお、豊川油田の原油累計生産
量は約128万klで、これは東
京ドームの体積に匹敵する量で
す。

平成19年(2007年)11月、
豊川油田は近代化に大きく貢献
した功績が認められ、経済産業
省から「近代化産業遺産群」の
認定を受けました。さらに平成
21年には、天然アスファルトが
露出し、その貴重な採掘の歴史
から地質学的に見ても貴重な地
域であるということと、「日本
の地質百選」の一つに選定され
ています。

私は大学4年のときに石油地
質調査で初めてこの地と関わり
を持ちました。その後40年あま
り国内外の石油を探査する仕事
に従事してきたのですが、ある
きっかけで再び豊川を訪問。そ
の寂れた風景と、地域の人々が
油田についてあまりに知らなさ
すぎる現実に直面しました。そ

こで身近にいる12人あまりの
方々に声をかけ、平成18年4月
に「豊川油田の歴史と産業・文
化遺産」という展示会を開催し
ました。その開催のために立ち
上げた団体が、「豊川油田の歴
史を伝える会」の前身「豊川を
ヨイショする会」です。

豊川油田は平成25年に発見か
ら100周年という節目の年を
迎えました。今後も人口減少や
少子高齢化が進むこの地にあっ
て、油田の歴史を語り継いでい
くことは地域の文化を保存・継
承していくための大事なアクシ
ョンだと考えています。そして、
夢である「豊川石油の里」構想
を実現させるためにも、これか
らも地道に、継続性を持って活
動していきたいと思えます。

昭和16年頃の豊川の風景。油田があ
った丘陵地、株山を下った辺りの写真。
一面に広がる田んぼの背後の丘には
秋田杉で作られた櫓が林立している
のが見える。写真右は「竜毛堤」と言
い、江戸時代から作られていた貯水
池。「田んぼと油田」が両立していた
豊川を象徴する1枚





豊川コミュニティセンターで行われた 留学生による「豊川レポート」の発表会。 地元のみなさんからも 温かい感想の数々をいただきました!

Interview 1

“最長老”のお話は 驚きの連続でした

私たちがインタビューした五十嵐養治郎さんは92歳、豊川に住んでいらっしゃる石油関係者の中で最長老の方です。インタビューを通して豊川油田の移り変わりとそこで働いてきた養治郎さんのことを知りたいと思いましたが、なんと養治郎さんが働いていたのは豊川ではなく、県南部の象潟でした。「お金がなかった」、「頭も良くなかった」とおっしゃる養治郎さんが努力して豊川からたった1人新潟の石油教習所に入ったこと、豊川に戻りたいと思いつつ昭和14年から40年間仕事を続けられたこと、新潟から秋田までパイプラインをひくという大事業、戦争による掘削機械の徴収、そして終戦、お話は驚きの連続でした。養治郎さんが「これだけは覚えている」とおっしゃった最初のお給料、それは50銭です。今だと1000円ぐらいに値するそうです。[朱敏、楊晶、徐勝男、任芸、金テヨン、朴ヒョンソン、バビエラ・カレン]

豊川についていろいろな視点から調べられており、こちらがワクワクした。



Interview 3

豊川の未来を諦めない 様々なアイデア

豊川で生まれ育ち「豊川油田の歴史を伝える会」の会長もされている平野俊彦さんから、豊川油田の過去にとどまらず、未来の展望についても聞きたいと思いインタビューを行いました。俊彦さんは、豊川に人を呼び込むために、豊川油田の資料館を整備し、温泉や道の駅、酒屋さんなどと協力しながら豊川の観光を充実させていきたいと考えているようです。ですが、私たちが豊川を歩いたときに感動したのは、山に囲まれた静かな環境、緑から茶色まで多彩なグラデーションを見せる木々、道端になるフルーツです。これらの風景は住民の方にとっては普通かもしれませんが、ずっと都市に住んできた私たちは山道を歩きながら心の中で「ここに住みたい!」と叫んでいたんです。[黄少普、胡海明、慕雨航、羅ヒョンズ、金スチン、アフメトバリエバ・ザリナ、エルヘムバヤル・オユンザヤ]

意外に、油田のある地域は環境が悪いと思われていたことに驚いた。



Interview 2

にぎやかだった豊川 でも過去には戻れない

クラブでの映画上映、エンジンの冷却水で温めたお風呂、相撲の賭けとその後の飲み会、そしてオイルショック時の社員旅行。平野修悦さんのお話で印象的だったのは、豊川油田が繁栄していて、豊川がにぎやかだった頃の生活の一場面です。それに対して、将来の豊川が昔のにぎわいを取り戻せるかと尋ねたところ、修悦さんのお答えは「無理だな」という一言でした。子どもはみんな大学に入れば帰ってこない、帰ってきたって仕事がない。子どもには子どもの付き合いがあるからと笑う修悦さん。それでも、大好きな探偵映画を見たり、釣りをしたり、ご夫婦で旅行をしたりする今の生活は幸せだそうです。[回曉彬、呉月、王策、許師蘭、黄詩繹、安スヒョン、羅ボルム、猿田紗希]

留学生の視点、感じたもの、大変おもしろい発表でした。



発表に工夫がありました。よく聞き取りをされていて、内容が濃いものでした。



産・学・官(县市町村)が一体となって進めてほしい。文化の継続が必要です。私のときは、油田など教科書に記されていたが、今は教科書に記されていないのでは?

留学生の視点から豊川を再生するプロデュースをしていただきたい。





豊川油田についてよく理解していた。細かいところまでインタビューに良く問いかけたのが良い。過去と現在の違いをよくまとめていた。

留学生の皆さんと一緒に油田をまわったり、インタビューを行ったりして、私もまったく知らなかったことを多く学べました。このようなきっかけがなければ、ずっと潟上市に住んでいたのに、知らないままだったと思います。



Interview 6

豊川油田に対する 高校生のリアルな感覚

貧しい人々を助けた聖農・石川理紀之助、大正から昭和にかけて栄えた油田など、豊かな歴史を持つ豊川。そこで育った人たちの誇りやアイデンティティについて聞きたいと考えた私たちは、豊川に住む高校生の皆さんにインタビューをしました。しかし、皆さんは「ちょっとだけ」しか豊川について習ったことがなく、油田の存在は生活に「まったく影響がない」そうです。その代りに私たちは、月9ドラマやスイーツの話題で盛り上がりました。豊川小学校の元教師、富士盛先生が言う通り、豊川で育った子どもたちは皆暖かくて優しいです。ですが、いい子どもたちが育っても、彼らは皆遊ぶ時は豊川の外に行き、そしてそのまま、将来豊川を出て行ってしまいます。豊川の外で油田のことを思い出す日は来るのでしょうか。[廖巧媛、賈浩琦、張璋、オサンミン、朱ソンビン、ス・イン・モー、ヴィウレツ・ユリア]

私は豊川油田関係者ですが、自分でも知らないところもありました。よく勉強されました。



超高齢化社会を迎え、衰退していく故郷を見ていくのは寂しかったが、このような活動を通して一人でも多く豊川について知ってもらえるのは、ただ感動しかない。ぜひ、これからも恒常的に関わって欲しいと願います。

Interview 4

「昔の豊川は男女平等」 先入観が覆りました

昔の女性の生活は大変で、今の女性の生活は楽で楽しい。平野むつ子さんにインタビューをする前、私たちはそう考えていました。ですが、むつ子さんの意見は違いました。機械化が進む前の田んぼでは男女の区別なく皆が平等。逆に合理化された今の田んぼでは女の人が田んぼに入ることは少なくなったそうです。今の生活は豊かになったけど、やはりむつ子さんは過去に戻りたいそうです。昔のようにやぐらに登って、懐かしい人が行きかう栄えた豊川をもう一度見下ろしてみたいと思っているからです。ですが、最後に「将来の夢は何ですか」と聞いた時、私たちは思いがけない答えをもらいました。むつ子さんは「日本よりたいしんたもんだ」というフロリダのディズニーランドに行きたいそうです。友だちと蝉や野イチゴをとり、うちの人が迎えに来るまでソリ滑りをしていた小さなむつ子さんが垣間見えた気がしました。[王思雨、寧珊瑚、徐永丹、周素娟、鄭ユウブン、李ジンス、クリスティアナ・マリア]



昔から豊川地区に住んでいる人たちのお話を聞くことで、油田が盛んだったころのお話など、より具体的にリアルな話が聞けておもしろかったです。

潟上市は都会的な部分と豊川のような田舎の部分が混在している。他の地域にも足を運べないか。

Interview 5

パワフルなお二人から まさかの逆取材!?

小さいときから仲が良く、今でも二人で様々な地域起こし活動に関わられている藤原直人さんと鈴木壮二さん。豊川の農業、小さい頃に見た油田の風景、SNSを活用した豊川の広報活動、それでも若者が出ていく今の豊川について、すごいスピードで話してくださいました。お二人が生まれたときには既に、豊川油田は石油の精製を止めていました。そこで今回のインタビューでは主に今の豊川についてお2人の意見を伺おうと思ったのですが、気が付くと私たちがいくつも質問を投げかけられていました。中でも、「もし豊川に生まれたとしたら、皆さんはここに住み続けたいか」。この質問に対する答えは今でもはっきりとはしていません。[吳天歌、楊雨微、崔潔、王云婷、吳艶凡、許俊、黄チャンユン、申スンフォン]

会話をよくメモしていたことがわかりました。インタビューのときから真剣に参加していたようです。



田んぼと油田



留学生と出身地域

朱敏(中国)、楊晶(中国)、徐勝男(中国)、任芸(中国)、
金テヨン(韓国)、朴ヒョンソン(韓国)、パピエラ・カレン(フィリピン)、
回曉彬(中国)、呉月(中国)、王策(中国)、許師蘭(台湾)、黄詩繹(中国)、
安スヒョン(韓国)、羅ポルム(韓国)、猿田紗希(日本)、黄少普(中国)、
胡海明(中国)、慕雨航(中国)、羅ヒョンズ(韓国)、金スチン(韓国)、
アフメトバリエバ・ザリナ(カザフスタン)、エルヘムバヤル・オユンザヤ(モンゴル)、
王思雨(中国)、寧珊珊(中国)、徐永丹(中国)、周素娟(台湾)、
鄭ユウブン(台湾)、李ジンス(韓国)、クリスティアナ・マリア(ルーマニア)、
呉天歌(中国)、楊雨微(中国)、崔潔(中国)、王云婷(中国)、呉艶凡(中国)、
許俊(韓国)、黄チャンユン(韓国)、申スンフォン(韓国)、
廖巧媛(台湾)、賈浩琦(中国)、張璋(中国)、オサンミン(韓国)、朱ソンビン(韓国)、
ス・イン・モー(ミャンマー)、ヴィウレツ・ユリア(ルーマニア)

*グループ順

編集後記

今年には豊川油田が舞台でしたが、とりわけ興味深かったのは、豊川が巻き込まれた時代の波の存在でした。歴史を振り返るとき、私たちはつい一元的なものの方を見てしまいがちです。

例えば豊川の歴史ならば、「かつて石油で栄えた土地だったが、今は少子高齢化によって元気がない町になってしまった」という「町の歴史」的イメージで捉えることが多いに思います。しかしこれは、決してそれだけで完結する話ではありません。佐々木榮一さんにいただいた資料によれば、豊川油田は大正時代から急速に発展し、その後、原油生産量の低下によって衰退していきます。ここからわかることは、石油をめぐる好景気は「突如吹き荒れた突風」のようなものだったということです。

ここには「資本主義」や「経済成長」といった背景があります。エネルギーの主力が石炭から石油に移行し、国内で油田開発のニーズが高まり、元からア

スファルトが産出されていた豊川に白羽の矢が立った。そして好況期を迎えるも、外国産石油との価格競争や戦争をめぐるゴタゴタにより、次第に衰退していった――。

これはエネルギー資源開発の宿命ですが、こういった発展と衰退の流れは、実は世界中の至るところで繰り返されている現象です。そう考えると、本書は単なる「町の歴史」にとどまらず、資本主義社会の未来を予見する物語としても読めそうです。そんな視点からお楽しみいただけたら幸いです。 [清田]

今年度も皆さんからの多大なるご協力により何とか第2号発行にこぎつけることができました。豊川の皆様、学生の皆さんそして締め切り前のドタバタにつき合ってくださった豊川油田をこよなく愛す佐々木榮一さんに本当に感謝です。来年度の第3号発行目指し頑張ります！

[平田]

田んぼと油田

通算第2号

発行日 2016年2月1日

発行 秋田大学 国際交流センター
〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1
電話 018-889-2258
ファックス 018-889-3012
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>

企画 平田未季(秋田大学国際交流センター)
秋田大学基礎教養科目「日本社会入門II」を受講した留学生44名

企画協力 佐々木榮一

編集 清田隆之

デザイン ウチカワデザイン

写真 荻原和哉(秋田大学写真部)
澤田岳志(秋田大学写真部)
頓部真大(秋田大学写真部)
堀江 瞬(秋田大学写真部)

イラスト 平田早季

協力 池田 啓(秋田大学国際資源学部・国際交流サークルCCC代表)
奥山健人(秋田大学理工学部)
加賀谷 健(秋田大学工学資源学部)
佐々木梨奈(秋田大学教育文化学部)
湯上市

Special Thanks

「草木谷を守る会」
「豊川油田の歴史を伝える会」

印刷・製本 株式会社山田写真製版所

Feb. 2016

